

kintone 新テレビ CM に俳優の豊川悦司さんを起用

「自らつくれる」喜びを噛みしめる文系の部長役をチャームングに熱演

「たのしそうな部長」篇／「一筋縄ではいかない業務」篇の2本を10月11日(水)から順次放映開始

サイボウズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：青野慶久、以下サイボウズ）は、俳優の豊川悦司さんをキャストに起用した業務改善プラットフォーム「kintone（キントーン）」の新テレビCM「たのしそうな部長」篇と「一筋縄ではいかない業務」篇を、2023年10月11日（水）から全国で順次放映開始します。



新テレビCM「たのしそうな部長」篇より

■企画背景

キントーンのテレビCMがはじめて放映された2020年からの約3年間で、キントーン自体を広く認知していただき、2023年7月には導入社数が3万社を突破しました。これまでのテレビCMでは表計算ソフトのトラブルにより、多くの時間を奪われているビジネスパーソンが、キントーンによって「やりたかったことが、簡単に早く。」実現していく様子を描いてきました。かたや、近年デジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性が高まっており、非IT部門のビジネスパーソンにも事業活動のデジタル化が求められるようになっていきます。キントーンはITの専門知識がない人でも、素早く、簡単に、業務アプリを「自らつくれる」ことによって、現場主導のDXを実現できるサービスです。そこで、今回のテレビCMでは「ノーコードで業務アプリをつくろう」をキャッチコピーに、自分たちで業務課題を解決する楽しさを描きました。

■新 CM 概要

放送開始日：2023 年 10 月 11 日（水）から順次

放送エリア：全国

●新 CM シリーズ：全 2 篇、各 15 秒

たのしそうな部長篇：<https://youtu.be/iJg-yUxPICg>

一筋縄ではいかない業務篇：<https://youtu.be/7ldqxCl3a7o>

■特設サイト

<https://kintone.cybozu.co.jp/jp/no-code/>

■CM ストーリー 「たのしそうな部長」 篇（15 秒）

文系管理職の豊川さんが、自分でキントーンを操作して、業務に必要なアプリをつくるシーンを描きます。ドラッグ&ドロップで簡単につくれることから、作業中に思わず鼻歌&微笑んでしまっています。部下も不思議そうに見つめるその先で、自信満々に誇らしげにしている豊川さんにご注目ください。

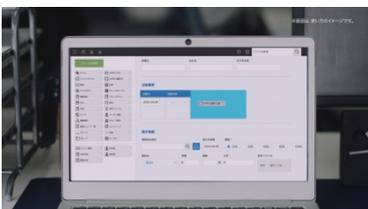
< 「たのしそうな部長」 篇 ストーリーボード >



部長オフナレ
「文系管理職なのに〜♪」



社員 A「たのしそうな部長」
社員 B「あんな顔で笑うんですね」



部長オフナレ
「画期的な業務アプリを〜
♪」



部長オフナレ
「俺〜♪」



部長オフナレ
「シュシュっと作れちゃう、俺〜♪」



NA：ノーコードで業務アプリをつくらう
キントーン。

■CMストーリー 「一筋縄ではいかない業務」篇

どんな企業にもある「一筋縄ではいかない」複雑な業務を遂行するために、豊川さんが演じる（文系の）部長が、サクッと案件管理や分析ができるアプリを作ってしまうシーンを描きます。現場の視線はチラチラと部長に向けられ、職場全体に緊張感がにじむ中、部長が恐る恐る作成した業務アプリを現場社員たちに見せると……。 「こんなこともできるのか！」とキントーンで業務がスムーズに進行する可能性を現場社員が感じ取り、一同歓喜の瞬間が訪れます。

< 「一筋縄ではいかない業務」篇 ストーリーボード >



部長オフナレ

「この案件の進行…」



部長

「キ、キントーンで業務アプリできたけど」



「進捗と作業量から工数と納期を見積って」



「……」



「タスクを分析するとうう」



一同「わー——い！」



「一筋縄ではいかない業務だが…」



NA :

ノーコードで業務アプリをつくらう

■撮影時のエピソード

撮影は残暑の残る某日、都内のオフィスで行われました。ビシッとスーツ姿で決めた豊川さん。独特のオーラを放ちつつも、大物俳優としての抜群の演技力と安定感で、撮影は難なく進みました。

「たのしそうな部長」篇の撮影では豊川さんのやさしい歌声にスタッフの心は奪われ、「一筋縄ではいかない業務」篇の撮影では、社員が小気味良いダンスを披露するシーンを見た豊川さんが思わず手拍子をしてしまうなど、普段のクールなイメージとは異なる表情を見せてスタッフの笑いを誘いました。撮影現場では豊川さんご自身にも笑顔があふれて終始和やかなムードに包まれました。

■新 CM シリーズ キャスト

・部長役 豊川悦司さん



映画「12人の優しい日本人」(1991)、「きらきらひかる」「課長島耕作」(1992)と続けて出演した映画での演技が評価され、第14回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞、第16回日本アカデミー賞新人賞、第18回おおさか映画祭助演男優賞など数々の映画賞を受賞。「Love Letter」(1995)「八つ墓村」(1996)「ミッドウェイ」(2020)「弟とアンドロイドと僕」「キングダム2 遥かなる大地へ」「あちらにいる鬼」(2022)などの映画や「愛していると言ってくれ」(TBS/1995)「青い鳥」(TBS/1997)などの主演ドラマが大ヒットし、人気・実力ともに日本を代表する俳優に。近年では映画「そして僕は途方に暮れる」「リボルバー・リリー」「仕掛人・藤枝梅安」(2023)やドラマ「No Activity/本日も異状なし」(Amazon Prime/2021)などに出演し、話題を呼んだ。

■豊川悦司さんのコメント

「自分自身は普段PCを使う機会が少ないのですが、キントーンは画面を見るだけで感覚的に分かって面白かったです。キントーンを使う楽しさがみなさんにも伝わればいいなと思います。」

報道関係者様からのお問い合わせ先

サイボウズ株式会社 広報部：浦田、恵良

〒103-6027 東京都中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー 27階

TEL: 03-4306-0803 / FAX: 03-5204-1040 / MAIL: pr@cybozu.co.jp

※商標・著作権表示に関する注記については、こちらをご参照下さい。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/>